

福井県支部便り (辟擁会通信8号)

今号8号は、青木喜一郎先生（森田中学校）と塚本嘉夫校長先生（若狭町三宅小学校）に寄稿していただきました。どうぞお楽しみください。（編集：当辟擁会福井県支部事務局 小林）

「コミュニティーの大切さ」

青木喜一郎（D類書道専攻） 1994年3月卒
現勤務先 福井市森田中学校



現在、福井市森田中学校で教務主任をしています。今年で50歳になりました。年をとればとるほど、その時々を下す判断がいかに大切かということを感じます。「このような時にはどうしたらよいのか、自分の判断は今の社会の視点とずれてはいないだろうか」といつも思います。

昨年度、福井大学教職大学院を修了しましたが、その間に「コミュニティー」がいかに大切かということを学習しました。これからの時代は、教員も学校以外の世界に自ら出向き、学校とは異なる世界で自分の見識を高めることが大切になってくると感じます。

このように考えると、勤務校（職場）以外にも自分の所属するコミュニティーがあるということに心強さを感じます。辟擁会福井県支部も、私の大切なコミュニティーの一つにしたいと思っています。

教員は、7年満期で次の職場に異動となります。しかし、コミュニティーの所属については、自分が辞めない限りずっと続きます。人生の長い視点で見えますと、職場よりもコミュニティーの方が長くお世話になる所といえるかもしれません。

皆様にお目にかかれることを楽しみにして、コロナ禍を乗り切りたいと思います。

「玉川上水」

塚本嘉夫（A類保健体育） 1986年3月卒
現勤務先 若狭町立三宅小学校 校長

私は4年間、吉祥寺にある講正学舎という県人会の寮から大学へ通っていた。成蹊大学の西側にあり嶺南にゆかりのある学生がお世話になっていた。（現在は京王線明大前に移転）他に明倫学舎と郷友会という2つの県人会寮もあり三寮対抗球技大会などもあったと記憶している。福井県支部の方でご存じの方もおられるかもしれない。

1年の時は中央線で武蔵小金井まで行き、駅から大学まで歩いて通った。閑静な住宅街の中を通る細い道の雰囲気は何となく覚えている。2年からは原付を使い五日市街道から新小金井街道経由で通った。緑が美しい玉川上水沿いの道はとても快適だったと思う。

（次ページへ）

玉川上水といえば、私が所属していた陸上部中長ブロック定番の練習コースで、「砂川3番」なら往復20Km走、「拝島」なら往復30Km走という感じだった。他にも小金井公園、野川公園、井の頭公園、浅間山公園など、学大周辺にはたくさんの練習場所があり、往復の道のりも含めてたっぴりと走ることができた。このような恵まれた環境のもと、中長ブロック最大の目標である箱根駅伝出場目指し全員で練習を重ねていた。

そうして迎えた1983年、私が2年のときチームに大きなチャンスが訪れた。第60回箱根駅伝は記念大会のため出場校が5校増え20校となることが決定、予選突破の可能性が大きく広がったのである。この年の陸上競技部は男子が関東インカレで二部優勝、一部昇格を決め部全体が勢いに乗っていた。中長ブロックの士気も大いに上がり、有吉正博先生の指導のもと、日々の練習はもちろん、春、夏、秋と合宿を重ねチームの力はどんどん高まっていた。迎えた11月6日、箱根予選会が大井埠頭周回20Kmコースで行われた。陸上部員総出によるサポートや応援、OB・OG、大学関係者など多くの方の声援を受け14人が激走、総合11位(11位までが予選通過)、上位10人の平均タイム1時間8分以内という参加標準記録もクリアし、みごと23年ぶりに本選出場を決めることができた。

尚この日は東京大学も初出場を決め大いに話題となった。

さて、本戦へ向けて準備も進み、ついに1984年1月2～3日、第60回箱根駅伝が開催された。わが東京学芸大学陸上競技部は、沿道の熱い声援に励まされながら力走、上位校の力には大きく及ばなかったものの、予選会から一つ順位を上げ総合19位でフィニッシュした。

3月の獅友会会報には、「初出場依頼、最下位にはならないというジंकスを守った」と書かれている。



【陸上部 OB 会会報】

この年は早稲田大学が圧倒的な強さで往路から独走態勢、最終的に2位日体大に15分18秒の大差をつけて完全優勝を飾った。

私は8区(平塚～戸塚)21.3Kmを走らせていただいた。とにかく覚えているのは沿道の声援が全く途切れなかったということ。そのおかげで最後まで気持ちが切れることなく区間18位で走り終えることができた。選手の時も多くの方に応援していただいたことを感謝していたと思う。しかし、教員、指導者として様々な大会に関わってきて、一つの大会がどれだけ多くの方に支えてもらっているか、そして、大会に参加するには準備期間も含めてどれだけたくさんの方が応援してくださるのかを実感した。ここであらためて、当時お世話になったすべてのの方々に感謝申し上げたい。本当にありがとうございました。コロナが落ち着いたらまた学大へ足を運び、玉川上水をはじめ、お世話になった練習コースに出かけてゆっくりジョギングなどしてみたいと思っている。



【報知新聞 1983.11.7】

※東学大21年ぶりはのちに訂正



【報知新聞 1984.1.4】